



先端のファッションストリート「ノブヒル」



アンティーク店舗が連なる「セルウッドストリート」

ローカルファーストの商店街が魅力のポートランド ～チェーン店から、地縁店へ～

株式会社商い創造研究所 代表取締役 松本大地

茅ヶ崎駅の北口、南口には茅ヶ崎市商店街連合会に加盟する12の商店街が存在する。他の街と比べると個性的な店舗が連なる街路もあり、その多くは住宅と寄り添っているのが特徴と映る。住民にとって古くからある地元店舗は日常の利便性だけではなく、お店の佇まいや店主の人柄なども大切な生活の一部との印象が残った。

今、コンビニエンスストアの市場規模は10兆円を超え、56,000店もある。全国津々浦々のコンビニは生活インフラとなったが、街なかでは酒屋、八百屋、魚屋、総菜屋、パン屋、タバコ屋、駄菓子屋、電気屋、金物屋といったかつての生活インフラの業種店が姿を消していった。一方、郊外には全国一律のロードサイド型ナショナルチェーン店が席卷し、全国各地でも似たり寄ったりの街の風景となった。そこには店主の人柄や思いは生まれず、地域らしさと地域の活力は失われていく。

街なかにコンビニや量販店、ナショナルチェーン店がほとんどなくとも、豊かな生活文化に囲まれ良質な暮らしが魅力なのが米国オレゴン州ポー

トランドである。

それを支えているのがローカルファーストの考え方。ポートランドにもマクドナルドやスターバックスはあるが、ハンバーガーは地域で育てられた安心安全な食材を使ったバーガービルを好み、コーヒーショップはサドウェーブというワインを嗜むようなバリスタによって丁寧にドリップされた個性的な地元店を選択する。住民はオレゴン州を中心にしたローカルフードを集めたニューシーズズマーケットという地元のスーパーを誇りに思い、持続可能な農業生産ができるようファーマーズマーケットも応援する。レストランのシェフは地元食材を使い、ポートランドらしい創作料理を提供する。ホテルの備品は地元アーティストの絵や写真が使われ、街路には地元作家のパブリックアートが並ぶ。ファッションやインテリアは、地元のコロンビア・スポーツやKEENの他、1つ1つ異なるクラフト物や長年使われたアンティーク家具が好まれるなど、持続可能な地域生産、地域経済循環、地域雇用につながっていく。

ポートランドはローカルファーストのお店が連なるショッピングストリート、いわゆる商店街が大人気であり、ショッピングセンターやチェーン店も太刀打ちできない。各ストリート



地元サードウェーブコーヒー人気店「COAVA」

にもそれぞれ個性がある。

先端を走るのはミシシッピーストリート。改装や解体で不要になったドア、机、窓枠、ランプ、厨房器具、バスタブなどを無料で回収し、販売する大きなボランティア団体のリサイクルセンター、食事ができるカフェを併設し、地域コミュニティの役割を果たすコインランドリー、動物の箱製だけを集めたショップや人気のアイスクリーム店、ライブハウスなど、ワクワクドキドキする店舗が並ぶ。セルウッドストリートはリサイクル、リユースが生活に溶け込んだポートランドならではのアンティーク品が集積する商店街。ノブヒルは高級住宅地に囲まれ、高級スーパーからファッション専門店、歩道にせり出したカフェやレストランが並ぶオシャレな街路といった、どこもそれぞれの個性や主張があって商店街が街と共生している。



ローカルファーストを掲げる「ニューシーズンズマーケット」

街の中心部にはオフィスビルや駐車場ビルもあるが、それぞれ1階が商業もしくはショールームになっているのは、限界性を失うことのないよう決められた都市デザイン上のルールである。

一方、各ショップは透過性のある大きなウィンドーが賑わいをつくり、レストランやカフェは歩道にテラス席を設け、街路灯には美しいフラワーポールが飾られ、心地良いパブリックアートが続く。また1ブロックの道路の長さは約60メートルと、サンフランシスコやロサンゼルスに半分につくられ、自動車は速度を落として走行する。つまり戦略的に歩きやすい道づくり、ウォークブルな街区、街路が整備されている。

昨今、ポートランドの街歩きが話題になっているのは、人々が共感して幸せな気分になれるからであり、その主役は地域の魅力に溢れたローカルファーストの店舗である。もしポートランドがナショナルチェーンばかりの街だったら人は訪れるだろうか。唯一無二の地縁のお店があるストリートは地域文化そのものである。

“チェーン店から地縁店へ、そのエンジンは茅ヶ崎ローカルファースト”を提唱したい。

茅ヶ崎の商店街もそれぞれの地域資源(リソース)を再度洗い出し、再発見、再編集して大きな軸をつくり、こういう方向性に自分たちが進むべきという目標を掲げることが重要になる。それを視座に地域文化として輝くローカルファーストへのチャレンジをすることが、将来の街づくりに繋がるだろう。海に近い環境で仕事や生活を楽しめる茅ヶ崎らしい街路には、街の風情や住民の匂いが残り、ちょっと自慢したくなるようなモノやコトや味に溢れた生活文化が似合う。富の考えがお金、ブランド品、便利さといった価値基準から、富が心地良さ、安心、社会性といった価値へと現代生活者の考えと行動が変化した。持続可能な社会を支えるローカルファーストは大きな可能性を秘めている。